

# 令和3年度学校経営計画

令和3年度～令和5年度

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	中野 尚人	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	-------	-----	----

## 1 ミッション(地域社会における自校の使命)

尾道市立の唯一の夜間定時制高校として「明明徳」の建学精神を継承し、生徒個々の生活環境や教育的ニーズに応じて、社会の中で自立し、自分らしい生き方を実現していくために必要な能力や態度、豊かな人間性を身に付けた人材を育成する。

### 【育てたい人間像】

- (1)社会に貢献する志を持ち、その実現に向けて資質や能力の習得を主体的に行い、自律性を重んじる生徒。
- (2)生きること感謝し、進んで人と交わり、理解し信頼し合える人間関係を構築し、協働して新たな価値(未来)を創造していける生徒。
- (3)社会人基礎力を身に付け、自らの可能性を信じ、自らの力で未来を切り開いていこうと挑戦し続ける生徒。

## 2 ビジョン(使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

「定時制は最も教育を必要としている生徒の集団である」という共通認識のもと、生徒の心に寄り添い励ましながら、利他の精神・協働の価値や喜びを、主体的かつ自律的に体得する教育機会を創造し実践し続ける、躍動感と一体感のある健全でアクティブな学校をめざす。

- (1) 教育活動に対するアイデアや工夫が自発的に生まれ、これを皆の力で具現しようと挑戦を続ける中で、生徒が「学ぶことは人生を豊かにし力強くする」ということを体得して、更に学び、自らを高めようと切磋琢磨する学校。
- (2) 生徒の就労や社会参加を支援して生活意欲を高め、これを学習意欲に繋げる取組を通じて、未来に希望と夢を抱き、自らの存在意義を確信して逞しく生き抜く力をつける学校。
- (3) 自由闊達な雰囲気の中、課題と目標を共有しコミュニケーションを充実させて、より優れた教育内容を意欲的・主体的に創造する協働体制を構築していくとともに、教職員が相互に認め合い研鑽し高め合う学校。
- (4) 家庭や保護者と課題を共有し、地域や関係機関の協力を得ながら、根拠に基づいた説明責任の果たせる教育を推進し、信頼され期待される学校づくりをめざすとともに、秩序と規律を互いに尊重し、危機管理を徹底した安全で安心できる学校。
- (5) 一体感と安心感をもって心身ともに健康に働ける職場風土の醸成を進めるとともに、業務の合理化・適正化が着実に進められ、働き方改革が実現されている学校。

## 3 環境分析

### (1)SWOT分析

外部環境分析 内部環境分析		機会(Opportunity)	脅威(Threat)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援・キャリア教育面における関係機関、地域のエキスパート等と連携がとれる。</li> <li>○尾道市、尾道市教育委員会からの協力を得ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夜間定時制高校教育の現状や課題に対する理解が得られにくい。</li> <li>○県教育委員会からの情報が入りにくく、情報を得るのに時間がかかる。</li> </ul>
<b>強み(Strength)</b>	<b>強みを積極的にチャンスに生かすために</b>	<b>強みを生かして脅威を回避するために</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の多くが就労しており、職業体験を通して、社会の厳しさを認識している。</li> <li>○小規模校で意識統一が容易で、機動力があり、迅速、柔軟、個別の対応ができる。</li> <li>○市立の夜間定時制の単独校であり、教育内容の独自性・特色を出しやすい。</li> <li>○学校行事や生徒会活動を重視し、体験を通した学びの場を作り出している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ケース会議等を開き、個別の支援計画を作成し、学校全体で組織的に行うことができる。</li> <li>○視覚・聴覚の効果的な活用や、学習活動のユニット化など、教育的な支援を核とした、授業研究を継続して行うことができる。</li> <li>○行事評価・改善シートによる検証を行い、各種研修報告会を実施することにより、常に改善、改革を考え、前年度踏襲型の指導を行わないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ハローワーク等関係機関との連携や計画的な企業訪問を行い、求人開拓や雇用拡大に努める。</li> <li>○ホームページ、学校だよりの改善を図るなどの広報活動に努め、本校の活動を広く理解してもらう。</li> <li>○公開授業研究会を実施し、教育内容を広く公開する。</li> <li>○学びの変革の実現に向けた取組を推進する。</li> </ul>	
<b>弱み(Weakness)</b>	<b>チャンスを生かして弱みを改善するために</b>	<b>弱みと脅威で最悪状況に陥らないために</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○限られた人数なので、外部に研修に出ることができない。</li> <li>○施設・設備が充分でない。(定員数を収容する普通教室・特別教室等が不足するなど) また、一部施設が、同一敷地内でない。</li> <li>○OPTA活動が十分に機能していない。同窓会からの支援も難しく、外部からの支えが期待できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中高連携を密に行い、そこで得た情報から年度当初に支援の具体的な方法を考えていく。</li> <li>○特別支援教育支援員や教科アシスタントを活用し、生徒への支援を通じて学びの変革を推進する。</li> <li>○インターンシップ等を実施することによって、職業教育の機会や場を拡大し、生徒の意識を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○尾道市教育委員会との連携を密に行う。</li> <li>○組織マネジメントの機能化と業務改善に努める。</li> <li>○教職員の円滑なコミュニケーションを図る。</li> <li>○ケース会議やいじめ防止委員会等の会議をより機能化させる。</li> <li>○OPTA活動を活性化し、保護者との連携を強化する。</li> <li>○同窓会等外部の支援機関との連携を密に行う。</li> </ul>	

4 目標の設定

学校経営目標						
達成目標	評価指標	実績値	目標値			担当部等
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
1 教育活動に対するアイデアや工夫が自発的に生まれ、これを皆の力で具現しようと挑戦を続ける中で、生徒が「学ぶことは人生を豊かにし力強くする」ということを体得して、更に学び、自らを高めようと切磋琢磨する。						
生徒が主体的に学習しようとする意欲や態度を育て、基礎学力を向上・定着させる。	振り返りシートでの授業内容に関する肯定的評価の割合	79%	80%	83%	83%以上	教務部
授業のルールを確立し、授業への出席を定着させる。	生徒の授業出席率	70%	75%	80%	80%以上	教務部
個別の合理的配慮を考慮し、生徒の共通理解に努め、組織的・統一的に支援の充実を図る。	個別の指導支援計画の作成率(保護者と連携して作成)	100%	100%	100%	100%	教育相談係
	診断が出ている生徒の1年間におけるケース会議の回数	新規	年2回	年3回	年4回	
2 生徒の就労や社会参加を支援して生活意欲を高め、これを学習意欲に繋げる取組を通じて、未来に希望と夢を抱き、自らの存在意義を確信して逞しく生き抜く力をつける。						
自己理解・他者理解を深め、自己肯定感の高揚を図る。	キャリア教育関係のホームルームの肯定的評価の割合	75%	80%	80%以上	80%以上	進路指導部
社会的、職業的自立を達成するための進路・職業選択、自己決定に関わる諸能力の形成を目指す。	自らの進路実現に向けて意欲的に活動している生徒の割合	70%	75%	75%	85%以上	進路指導部
3 自由闊達な雰囲気の中、課題と目標を共有しコミュニケーションを充実させて、より優れた教育内容を意欲的・主体的に創造する協働体制を構築していくとともに、教職員が相互に認め合い研鑽し高め合う。						
集団や社会の一員としての自己実現を達成するために、指導方針を明確にすると共に、ルールを明示し、生徒一人一人への理解と支援のための取組を講ずると共に、保護者への連携を丁寧に行う。生徒会活動の工夫や地域貢献活動等の参加を通して、仲間と共にパフォーマンスを高め合おうとする態度を育て、社会人としてのスキルアップを図る。	休学者(復学者含む)及び転学・中途退学者数の在籍生徒数に対する割合	15.6%	15%未満	13%未満	11%未満	生徒指導部
	行事等への参加率	62.5%	65%以上	67%以上	70%以上	生徒指導部
4 家庭や保護者と課題を共有し、地域や関係機関の協力を得ながら、根拠に基づいた説明責任の果たせる教育を推進し、信頼され期待される学校づくりをめざすとともに、秩序と規律を互いに尊重し、危機管理を徹底した安全で安心できる環境をつくる。						
家庭や地域から、子どもを安心して通わせることができる学校であるとの認知され信託される教育内容を創造し実施する。	保護者への学校生活改善アンケートの学校満足度(肯定的評価)	新規	93%以上	95%以上	100%	総務保健部
生徒の危機管理意識の向上させるため、防災訓練等を実施する。	防災訓練等への生徒の参加率	新規	70%	73%	75%	総務保健部
5 一体感と安心感をもって心身ともに健康に働ける職場風土の醸成を進めるとともに、業務の合理化・適正化が着実に進められ、働き方改革が実現されている						
業務改善を推進することで、職員の健康管理を行い、生徒と向き合う時間を補償する。	個々の職員の超過勤務時間が月毎に45時間、かつ、年間で300時間を超えない。	新規	0人	0人	0人	管理職

5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 教育活動に対するアイデアや工夫が自発的に生まれ、これを皆の力で具現しようと挑戦を続ける中で、生徒が「学ぶことは人生を豊かにし力強くする」ということを体得して、更に学び、自らを高めようと切磋琢磨する。			
生徒が主体的に学習しようとする意欲や態度を育て、基礎学力を向上・定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学び直しの内容を取り入れ、達成感、充実感の味わえる教材や授業づくりを行う。</li> <li>(2) 校内及び公開授業研究会を実施する。</li> <li>(3) 振り返りシートによる授業内容の評価を実施し、成果や課題を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒全員の学習実態を把握する。</li> <li>(2) 各教科での学習内容に小・中学校の学び直しの内容を取り入れる。</li> <li>(3) 振り返りシートによる授業評価と分析方法について研究し、生徒の課題や気づき及び取組みの成果や課題を共有できる場を設ける。</li> </ul>	教務部
授業のルールを確立し、生徒の授業への出席を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 毎時間、授業の開始時にルールの確認を行う。</li> <li>(2) 構造化を図り、学習環境を整備する。</li> <li>(3) 特別支援教育支援員、教科アシスタントと連携し、支援の工夫、改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 集団指導と個別指導のあり方について工夫する。</li> <li>(2) 授業を支える環境について見直しを行う。</li> <li>(3) 特別支援教育支援員、教科アシスタントとの連携、支援のあり方について工夫する。</li> </ul>	教務部
個別の合理的配慮を考慮し、生徒の共通理解に努め、組織的・統一的に支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 本人・保護者の思いをくみ取り、関係機関との連携を深め、生徒理解に努めるとともに、学校への定着を支援し、自己肯定感・充実感を高める。</li> <li>(2) 授業におけるナチュラルサポートを確立し、生徒個々の困難性が解消できる手立てを組織的・統一的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 本人・保護者連携や関係機関との連携で得た支援状況、課題、手立てをケース会議や特別支援教育推進会議・教職員研修会で共有する。</li> <li>(2) 個別具体的な合理的配慮の深化に向け、教職員各々が生徒の個別のアセスメント、指導計画を作成し、生徒のキャリア実現に向けて活用する。</li> </ul>	教育相談係
2 生徒の就労や社会参加を支援して生活意欲を高め、これを学習意欲に繋げる取組を通じて、未来に希望と夢を抱き、自らの存在意義を確信して逞しく生き抜く力をつける。			
自己理解・他者理解を深め、自己肯定感の高揚を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 集団における学習を通して、様々な物の見方や考え方に触れ、ありのままの自分を受け入れ(自己受容)、自己肯定感を高める取り組みを行う。</li> <li>(2) 自分の考えをまとめ、自分の言葉で工夫して表現しようとする主体的な態度・意欲・積極性を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校生活改善シート・キャリアノートを実施することで、自己を振り返り、課題を明らかにし、具体的な個別の対応を考える。</li> <li>(2) 生活体験文の取り組みに向け、個別の支援を考慮した指導の在り方を検討し、実施する。</li> </ul>	進路指導部
社会的・職業的自立を達成するための進路・職業選択、自己決定に関わる諸能力の形成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 自らの人生と将来を考察し、高校生活で様々な経験を積み重ねていく中から、自分に適した具体的な進路目標を決定する。</li> <li>(2) 進路の実現を目指して、学習することにより、達成感や充実感を得て、自らが主体的に学習に取り組む態度を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校訪問・地域の企業訪問を行った後、職業安定所・就労支援関係事業所等との連携を深めたりする。</li> <li>(2) インターシップの事業所との連携を図り、多様な社会参加の在り方を模索する。</li> <li>(3) オープンキャンパス等の参加を促し、視野を広げ、進学に向けての意欲を高める。</li> </ul>	進路指導部

<p>3 自由闊達な雰囲気の中、課題と目標を共有しコミュニケーションを充実させて、より優れた教育内容を意欲的・主体的に創造する協働体制を構築していくとともに、教職員が相互に認め合い研鑽し高め合う。</p>			
<p>集団や社会の一員としての自己実現を達成するために、指導方針を明確にすると共に、ルールを明示し、生徒一人一人への理解と支援のための取組を講ずる。</p>	<p>(1) ルール・マナーを常に掲示し、全教職員が同一歩調で指導する体制を構築する。</p> <p>(2) 校内巡回(授業開始10分間の巡視等)や登下校時の校外巡回等継続的に実施する。</p> <p>(3) 日常的な教育的配慮による声かけを行う。</p> <p>(4) 生徒全員の課題を全教職員で共有し、協力連携して指導に当たる体制を確立する。</p>	<p>(1) 生徒に関わる組織的な情報交換と適切な指導により、生徒にルール遵守の態度を育て、安定した学校生活を送らせる。</p> <p>(2) 生徒一人一人の課題解決に向け、家庭との綿密な連携を行い、生徒・保護者との信頼関係を深める。</p>	<p>生徒指導部</p>
<p>生徒会活動や地域貢献活動等を通して、仲間と共にパフォーマンスを高め合おうとする態度を育て、社会人としてのスキルアップを図る。</p>	<p>生徒会の伝統を継承するだけでなく生徒会活動への生徒が参加しやすい工夫や、新しいアイデアや発想の導入を奨励し、その活性化を図ると共に連帯意識を高める。</p> <p>(1) 生徒が主体的・自発的に各種生徒会行事の企画・運営等を行うことを通して、主体性やリーダーシップを養わせる。</p> <p>(2) 生徒会を中心とした地域貢献活動に取り組みませ、社会人としての責任を認識させる。</p>	<p>自主性と創意にあふれた生徒会活動が展開し、仲間を重んじる土壌を育てる。</p> <p>(1) 行事の企画・運営を通して、仲間とつながろうとする姿勢を育てる。</p> <p>(2) 行事の企画・運営や部活動等を通して、地域につながり社会に貢献しようとする姿勢を育てる。</p>	<p>生徒指導部</p>
<p>4 家庭や保護者と課題を共有し、地域や関係機関の協力を得ながら、根拠に基づいた説明責任の果たせる教育を推進し、信頼され期待される学校づくりをめざすとともに、秩序と規律を互いに尊重し、危機管理を徹底した安全で安心できる環境をつくる。</p>			
<p>家庭や地域から、子どもを安心して通わせることができる学校であると信頼される。</p>	<p>(1) リアルタイムの学校情報を的確に発信し、家庭、地域、関係機関からの理解と協力を得る。</p> <p>(2) ホームページ担当者の育成に努め、担当者を中心に活動を活性化させる。</p> <p>(3) 各行事の見直しを図る。</p>	<p>(1) ホームページに掲載する内容を、全職員が考え、作成する。</p> <p>(2) 学校の情報が円滑に保護者や地域や関係機関に伝わるかを考える。</p> <p>(3) オープンスクールや公開研究授業等を活性化し、開かれた学校づくりをめざす。</p>	<p>総務保健部</p>
<p>生徒の危機管理意識の向上を図る。</p>	<p>(1) 様々な教育機会を活用して生徒の危機管理に対する興味関心を高め、その必要性和重要性を認識させる。</p>	<p>(1) 防災訓練、防災総合訓練への積極的参加を促す。</p> <p>(2) AED等の訓練を実施する。</p>	<p>総務保健部</p>
<p>5 一体感と安心感をもって心身ともに健康に働ける職場風土の醸成を進めるとともに、業務の合理化・適正化が着実に進められ、働き方改革が実現されている。</p>			
<p>業務改善を推進することで、職員の健康管理を行い、生徒と向き合う時間を補償する。</p>	<p>(1) 「働き方改革実行計画」を作成し、組織的な実施体制を確立する。</p> <p>(2) 働き方改革に対する、保護者や地域の理解と協力を得るための、渉外活動を積極的に行う。</p> <p>(3) 入退校の記録を徹底させ、職員の業務改善に対する意識を醸成する。</p>	<p>(1) 校内の組織体制の確立や、教育活動計画の見直しを行い、実践する。</p> <p>(2) 教職員の働き方に対する意識改革を行うための、研修を積極的に行う。</p> <p>(3) 管理職は教職員の組織管理や時間管理、安全管理を的確に行い、その整備に努める。</p>	<p>管理職</p>